

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 松原市立三宅小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒580-0046
大阪府松原市三宅中2丁目14番21号

E-mail : miyake@matsubara.e-kokoro.ed.jp

Website : <http://www.e-kokoro.ed.jp/matsubara/miyake/index.html>

児童生徒数：男子 165名 女子 172名 合計 337名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

①はじめに

本校のある松原市は大阪府の中南部に位置し、大阪市や堺市などの都市に囲まれた人口12万4千人あまりの衛星都市である。本校の校区は、その松原市の北部に位置し、大阪市内に隣接した住宅や工場、倉庫などが多い都市地域であるが、古くから農業のさかんな地域でもある。

しかし、ここ20年、開発が進み阪神高速等高速道路網も整備され、かつては地域に多く占めていた田畑も面積が減少してきている。

これに対して、地域では三宅土地改良区が中心となって田畑の基盤整備を行い、都市近郊農業に取り組んできた。地域の関係者の中には田畑を保全することで、地域の環境保全にも大きく役立ってきたと自負されている。また、本市は急激な都市化の中でゴミ焼却場を市内に設置することができなかったこともあり、ごみの分別や減量化についても先進的に取り組んできた。

平成26年度に創立140周年を迎える本校では、地域の伝統文化や稲作体験から学ぶ学習や地球規模の環境問題から地域の環境保全を考える環境教育に取り組んできた。さらに本校で長年継続して実践してきた支援教育や人権教育、国際理解教育の実践を基に、ユネスコスクールとして子ども達を持続可能な社会の担い手として育む視点を大切にしてきた。

②5年農業体験

5年生では、本校の学習農園において土地改良区・農協の支援を受け、農業体験を行っている。稲作体験だけでなく、その後餅つき、しめ縄作り等を行い、地域の伝統文化に触れる取り組みも行っている。

8年前からスタートした農業体験であるが、平成23年度に学習農園の名前を「田ンポーズ」と命名し、平成24年度には児童が農園のマスコット「こめたくん」を作成した。子どもたちに学習農園を身近に感じてもらうために始まったものだが、今では三宅のお米の宣伝に一役買っている。

5月20日（木）に、三宅町土地改良区や農協から来ていただいて5年生が米づくり説明会を行った。6年生代表が参加して、昨年度の体験を丁寧に説明してくれたことで子どもたちも1年間の見通しを持つことができた。その後、5年生は田んぼの草抜きを手伝ったあと、6月4日（火）に田植えを行った。

今年は近くの阪南大学の留学生に参加を呼びかけたところ、数名の留学生が参加してくれ米作りを通じた国際交流も初めて行うことができた。子どもたちが中国や韓国からの留学生と英語を通じたコミュニケーションができたことも大きかったが、米作りや和食の文化について留学生から高い評価をしてもらい、日本の農業や食文化の良さを再確認することができた。留学生の感想を一部紹介する。

Bさん

「交換留学生のBです。今日は松原三宅小学校の5年生と一緒に初めて田植えを体験できてよかったと思います。めちゃくちゃ楽しかったです。学生たちはみんなかわいくて、おもしろかったですね。彼らを見て、私は自分の子供の時を思い出しました。懐かしいなあと思って、その時毎日楽しくて、戻りたいなあ。

田植えの時、みんな裸足で水田に入って、苗を田に挿しました。ねばねばですけど、楽しかったです。機械見学の時、あの機械を見て、早くて便利で、うまくできていると思って、私もやりたいね（笑）

今日初めて田植えを体験して、昔の農家たちのつらい労働がわかってきまし

た。ご飯を食べるときいつもありがたいですね。九月収穫の時、みんな自分の作ったコメを食べて、必ずおいしくてうれしいと思います。

皆さんお疲れ様でした。ありがとうございます。もっと子供達と交流できる時間があれば良かったかなと思いましたね。これからチャンスがありましたら、またいろいろ体験したいと思います。」

その後、夏休みをはさんで子どもたちは、田んぼの草抜きの手伝いを行った。そして、7月に入って案山子づくりを学年で行った。班ごとに手作りで工夫を凝らした案山子を製作し、7月末の暑い日に案山子を設置した。8月には防虫ネットの設置を手伝い、9月には案山子の撤去を行う中で、秋になると稲も順調に育った。

ついにみんなが楽しみにしていた稲刈りの日、10月3日(木)がやってきた。当日は、午前中少し雨が降ったが、午後からは秋晴れのいい天気となった。子どもたちが田んぼの中に足を踏み入れると、虫やカエルなど生き物がたくさんいるので、最初は戸惑っている子もいた。最初は慣れない手つきの子どもたちも、地域の方から鎌の使い方を教えてもらい、途中から上手に稲刈りができるようになった。当日は、三宅町土地改良区や農協松原営農センターの方々は大変お世話になった。子どもたちに優しく稲刈りの方法を教えていただいた。また、田植えの時と同じように、中国・マレーシア・イギリスから、6名の阪南大学の留学生も参加してくれた。中には田植えの時に参加した留学生が2名も参加してくれ、子どもたちと楽しく交流することができた。

ここではお米のおいしさや日本の食文化の大切さや魅力を気付かせてくれた留学生の感想を紹介する。

「日本に来てから、一番美味しい食べ物は日本のご飯です。日本のご飯は本当に美味しいです。先生は日本のお水がきれいだからこそ美味しいのよと答えてくれました。しかしお水だけでは不十分だと思います。日本の食文化と関係があると思います。お米は和食の中で欠かせないものです。和食とは、米と魚類や野菜を中心として、ヘルシーで美容と健康によく、理想的な食生活のことで。現在では、和食は世界中の人々に親しまれています。

和食の中で欠かせないものであるお米は、近年、だんだん減っています。こんな美味しいものなのに、世界中の人々に親しまれているのに、なぜ減っているのでしょうか？一つの原因としては、外国の食が日本への侵入だと考えられます。例えば、ファストフードやフランス料理とイタリア料理などなどの原因だと考えられます。日本の食文化を失わないように、お米のおいしさを覚えてもらうために、日本の人々が頑張っています。

三宅小学校は学生たちにお米の大切さを教えています。毎年、田植えやお米の収穫を学生たちに教えています。それはすごくいいことだと思います。そして、留学生との交流によって、子供たちの視野も広がるのが期待できます。」

その後、刈ったお米の精米や袋詰めは土地改良区でしてもらい、コメタくんのキャラクターのシールを貼ったきれいな袋に入った「田ンポーズ米」ができあがったのである。

11月7日(木)午後、5年生が親子交流会で三宅っ子の米作り「収穫を祝う会」を行った。第一部は、三宅町土地改良区理事長のお話のあと、5年生が、米作りと林間のDVD上映を行い、米作りの感想を話してくれた。理事長から収穫米とタンポーズのキャラクター・コメタくんの缶バッチをいただき、5年生は、参加していただいた地域の方々や保護者の方に「南中ソーラン」を披露し

た。第二部は、PTA学級委員の皆さんが中心になっておこわをおにぎりして食べることができた。当日は、田植えや稲刈りに来た中国からの阪南大学留学生にも参加してもらい交流を行うことができた。

11月9日（土）には、松原中央公園で「食」をテーマにした地産地消のフェア「第4回まつばらマルシェ」が行われた。5年生の子どもたちは学習農園で収穫したもち米を販売し、ブースでは本校の学習農園でのお米作りを紹介した展示とビデオ上映を行った。

12月5日（木）には、地域の土地改良区など学習農園推進協議会の方に来ていただき、5年生にしめ縄・リースづくりを教えてもらった。昔はどこのお家でも玄関などに飾っていたしめ縄。子どもたちは地域の方に教わりながら、一生懸命作った。6月田植え、10月稲刈り、11月収穫祭と続いたお米作りの一連の取組みのまとめとなった。

③6年ナラクエスト

6年生においては、地域に住む外国人の方や校区にある府立松原高校の留学生との交流活動を行っている。平成19年度から文部科学省の委嘱を受け、英語活動の先進的なカリキュラム作りを進めたが、1年から6年生まで、英語活動と国際理解学習とのコラボレーションを進め、ALTによる英語活動の体験学習と、国際理解学習の体験・聞き取り学習を行っている。そしてこれらの学習・体験の集約の場として、6年生が遠足で行く古都奈良において外国観光者とコミュニケーション活動を行うプロジェクト型学習である「ナラクエスト」という取組みを実施してきた。

平成25年度は11月22日（金）、6年生は、秋の遠足で奈良公園・東大寺に出かけた。午前中は校園や社寺の見学を行い、午後は、東大寺の前で、「ナラクエスト」として、外国の人と英語でコミュニケーションを行った。子どもたちは最初緊張していましたが、途中から外国の方としっかりと話かけることができた。最後に、お礼に子どもたちが作った折り紙と本校のリーフレット（英文）を手渡した。外国の方も日本の小学生ということでやさしく接してもらい、子どもたちは外国からの観光客との会話を楽しむことができた。

④まとめ

本校は、平成19年度から「コミュニケーションを楽しみ、積極的に活動する、人権感覚豊かな児童の育成」を目標として、1年から英語活動と国際理解教育の学習を積み重ねてきた。

平成25年度は新たにお米作りに留学生を招待したり、6年のナラクエストで英語版の本校紹介リーフレットを配布したりすることができた。平成26年3学期の始業式では、校長が英語で挨拶し、日本のお正月について紹介する試みを行った。今後も、「ちがいを認め合うことができる心」を子どもに育むとともに、そのための「コミュニケーション力」を高める取組みを大切にしていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）